

結婚の質に及ぼす夫婦間のサポートの授受とサポート獲得方略 の授受の影響：二者関係における相互作用過程の観点から

周 玉慧

深田博己

(台湾中央研究院)

(広島文教女子大学)

本研究ではサポートの“送り手-受け手”と“能動-受動”の観点から、二者関係である夫婦間のサポートの交換過程を検討した。452組の台湾人夫婦を対象とし、情緒的、道具的、助言的サポートの3種類のサポートの要求量・被要求量・提供量・受け取り量、6因子のサポート獲得方略（脅し、他者利用、婉曲表現、報酬提供、哀願、理性的訴え）の使用度・被使用度、および充実度と後悔度の2側面の結婚の質の評価を求めた。二次因子分析の結果により、サポート獲得方略は強硬と柔軟の2つの高次因子にまとまった。また、夫婦間差異に関しては、夫に比べ妻の方はサポート要求量、脅し、他者利用、婉曲的表現、哀願や理性的訴えの方略使用度、強硬方略や柔軟方略の使用度が高く、妻に比べ夫の方はサポート被要求量、脅しと哀願の2方略の被使用度および結婚の充実度が高いことが見出された。最後に共分散構造分析の結果から、妻よりも夫の認知の方の重みが大きいことが示され、サポート要求、サポート獲得方略の使用、サポート受け取りおよび結婚の質の間のパス関係が解明された。

キーワード：サポートの送り手-受け手、サポートの能動性-受動性、サポート獲得方略、結婚の質、夫婦ペア

問 題

近年、ソーシャル・サポートに関する研究では、サポートを必要とする個人のみでなく、対人関係におけるサポートの交換や互恵性といったテーマが重要視されてきているし、夫婦関係に関する研究では、葛藤やネガティブな側面に限らず、サポート・許し・犠牲などの側面が強調されてきている (Fincham, Stanley, & Beach, 2007)。多くの学者がこれらのサポート研究と夫婦関係研究という2つの研究領域の統合に力を注ぎ始めたので、夫婦間のサポートの交換に関連する研究が多くなってきた。先行研究では、配偶者からのサポートは確かに良い影響をもたらすことが示唆され、配偶者からのサポートが多いほど、結婚生活への適応状態、問題解決や対処が促進され、うつ状態も軽減されることが示された (Gagnon, Hersen, Kabacoff, & Van-Hasselt, 1999; Katz, Monnier, Libet, Shaw, & Beach, 2000; Lynch, 1998; Tsutsumi, Tsutsumi, Kayaba, & Igarashi, 1998)。

その一方、先行研究ではサポートの要求量に比べた受け取り量の不足が心身の健康の低下と強く結びつくこと、そして、サポートを入手するための方略（サポート獲得方略）の重要性が指摘されてきた（周, 2000）。周（2000）は、サポート獲得方略には一般の承諾獲得方略と異なる独自で特殊な方策（方略を構成する基本的単位となる行動）が存在する可能性があると考へて、サポート獲得場面における独自の基本的なサポート獲得方略のリストを作成した。このリストを用いて、台湾の大学生を対象とした周（2003）は、サポートの受け手の用いるサポート獲得方略がサポートの種類とサポート源の種類によって異なるかどうかを2つの研究を通して検討した。その結果、親密度の高い相手に対しての方がサポート獲得方略の使用度が高いこと、多用される方略の種類が方略使用者の性によって異なることが示唆された。

続いて、サポート獲得方略を扱う際に夫婦間の授受の考へ方を導入した周・深田（2011）は、類型論かつ二者関係的アプローチの視点から、台湾人夫婦間におけるサポート獲得方略の使用類型とそれによるサポート受け取り量や結婚の質の差異を検討した。その結果、夫婦間サポート獲得方略の使用類型は、“双方多様型”（夫婦ともに脅し、他者利用、婉曲表現、報酬提供、哀願、理性的訴えの6方略のすべてを相対的に多く使用する型）、“夫理性妻多様型”（夫が理性的訴え方略のみを多く使用し、妻がすべての方略を多く使用する型）、“双方理性単一型”（夫婦ともに理性的訴え方略のみを多く使用する型）、“双方配慮型”（夫婦ともに婉曲表現、哀願、理性的訴えの3方略を多く使用する型）の4類型に分類された。そして、“双方配慮型”の夫婦は、サポートの受け取り量が最も多く、結婚生活の質が最も優れていること、“双方多様型”の夫婦は、サポートの受け取り量が最も少なく、結婚生活の質が最も劣ることが見出された。

ところで、サポートの交換や互惠性の研究では、サポートの“提供－受け取り”の次元において、個人を受動的なサポートの受け手であると同時に能動的なサポートの送り手として扱う観点の必要性が指摘されている（Acitelli & Antonucci, 1994; Väänänen, Buunk, Kivimäki, Pentti, & Vahtera, 2005）。こうしたサポートの“提供－受け取り”の次元における“能動性－受動性”という概念をサポートの“要求－被要求”の次元に拡張した周・深田（1996）は、サポートを求められる受動的な送り手であると同時にサポートを求める能動的な受け手としても個人を位置付けた。すなわち、周・深田（1996）は、サポートの“提供－受け取り”次元と“要求－被要求”の次元を同時に考へることによって、個人が能動的かつ受動的な送り手であり、さらに受動的かつ能動的な受け手でもあると考へ、二者関係におけるサポートの交換過程には4つの側面が存在することに着目した。そして、日本人青年（大学生・院生）を対象として、サポートの互惠状態（提供したサポートと受け取ったサポートの互惠状態、及び求められたサポートと求めたサポートの互惠状態）が心身の健康に及ぼす影響を検討したところ、“提供－受け取り”の互惠状態も“要求－被要求”の互惠状態も心身の健康に有意に影響を及ぼし、サポートが平衡であれば、感情状態が良好で、不適応度や心身の自覚症状が少なくなることが解明された。

“能動－受動”と“送り手－受け手”の二次元的観点から、サポートの交換を二者間の相互作用過程として捉え、さらに、この相互作用過程の中に、サポートの要求に使用される手段としてのサポート獲得方略の使用を導入すると、サポートの交換過程はますます複雑になる。例えば、夫婦間

係という二者関係を夫側から考えると、妻に対して夫が能動的にサポートを求めるとき、妻が夫からサポートを求められていると受動的に認知することによって、妻は夫に対して能動的にサポートを提供するのであり、その結果、夫は妻から受動的にサポートを受け取ることになる。

その際、妻に対する夫のサポート要求は、夫自身の認知する妻へのサポートの要求量と妻の認知する夫からのサポートの要求量（妻の被要求量）として捉えることができる。そして、妻からの夫のサポート受け取りは、夫自身が認知する妻からのサポートの受け取り量と妻の認知する夫へのサポートの提供量として捉えることができる。さらに、妻に対する夫のサポート獲得方略使用は、夫の認知する夫自身の妻へのサポート獲得方略の使用度と妻の認知する妻への夫のサポート獲得方略の使用度（妻の被使用度）として捉えることができる。

すなわち、夫のサポート要求は、夫のサポート要求量と妻のサポート被要求量から、夫のサポート受け取りは、夫のサポート受け取り量と妻のサポート提供量から、夫のサポート獲得方略使用は、夫のサポート獲得方略使用度と妻のサポート獲得方略被使用度から構成されると仮定できる。

同様に、妻側に関しても、妻のサポート要求は、妻のサポート要求量と夫のサポート被要求量から、妻のサポート受け取りは、妻のサポート受け取り量と夫のサポート提供量から、妻のサポート獲得方略使用は、妻のサポート獲得方略使用度と夫のサポート獲得方略被使用度から構成されると仮定できる。

先行研究の示唆と以上の考えに基づき、本研究は、サポートの影響過程に関して夫婦間の相互作用過程の観点より、サポート要求から方略の使用へ、方略の使用からサポート受け取り量へ、サポート受け取り量から結婚の質へ、という図1の相互作用モデルを設定した。図1の上半分をみると、夫にとって、“夫SS要求”という潜在変数は、夫のサポート要求量と妻のサポート被要求量の2つ観測変数から成り、“夫獲得方略”という潜在変数は、夫の要求方略使用度と妻の要求方略被使用度の2つ観測変数から成り、“夫SS受け取り”という潜在変数は、夫のサポート受け取り量と妻のサポート提供量の2つ観測変数から成る。図1の下半分の妻の場合も、上半分の夫の場合と同様である。

上述したように、本研究の目的は、夫婦間におけるサポート要求、サポート獲得方略の使用、サポート受け取りおよび結婚の質の間のパス関係に焦点化し、夫婦という二者関係におけるサポートの交換過程とそれが結婚の質に及ぼす影響過程を、一連の相互作用過程に組み込むことによって、解明することである。

方 法

調査対象者

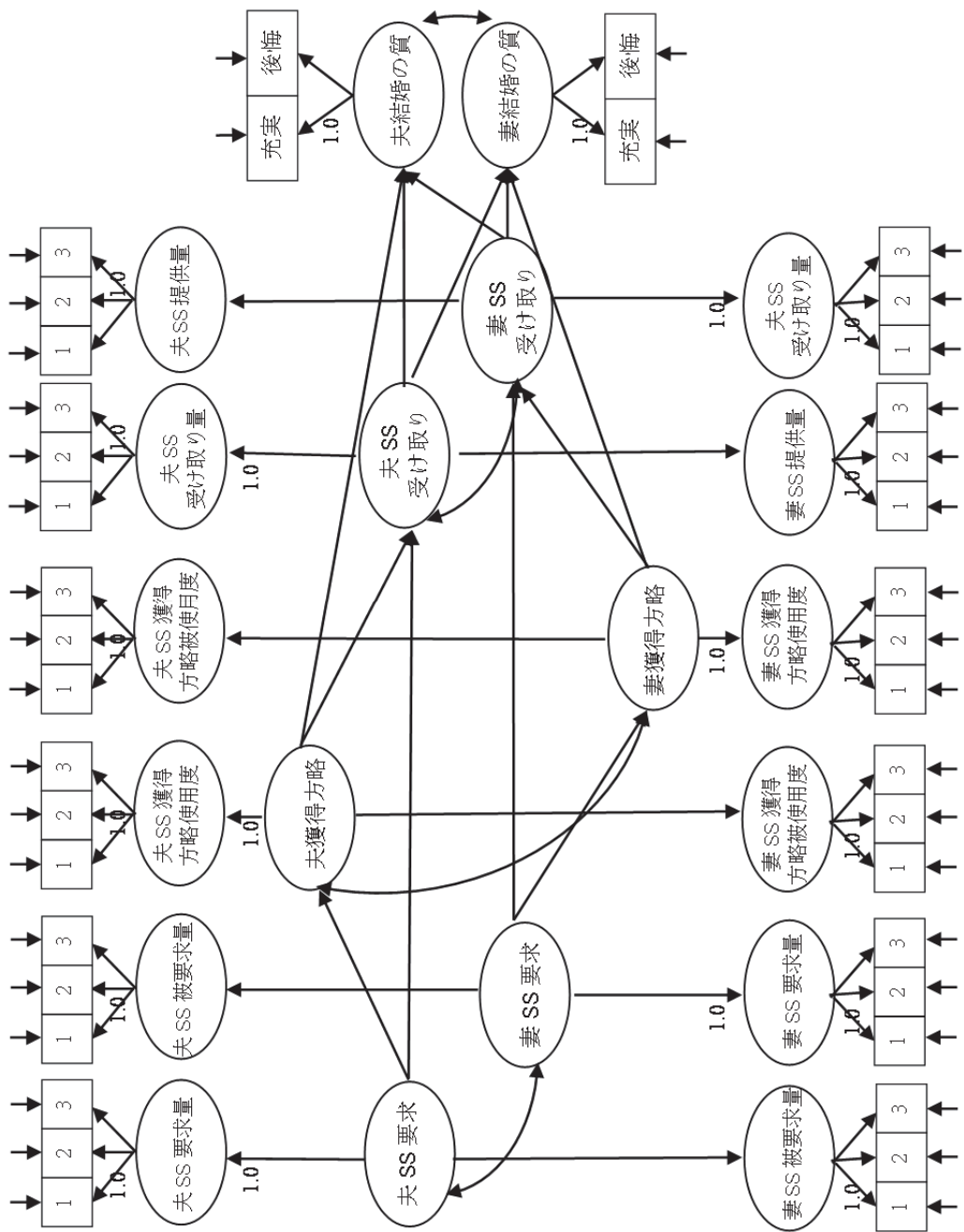


図1 サポート獲得における夫婦の相互作用過程モデル

調査対象者は台湾の台北市と台北県の452組の夫婦であり、夫婦別々に個別面接の手法を用いた質問紙調査を2001年4月－8月に実施した。対象者の内訳については、夫の年齢は24－54歳 ($M = 35.94, SD = 7.16$)、教育年数は6－20年 ($M = 13.76, SD = 3.20$)、妻の年齢は19－51歳 ($M = 33.14, SD = 7.04$)、教育年数は6－20年 ($M = 13.48, SD = 2.91$)、結婚年数は0－25年 ($M = 6.92, SD = 7.70$)、子供の人数は0－6人 ($M = 1.17, SD = 1.11$)、家庭の平均月収は台湾円で8.58万元(約27万7千円)であった。

測定内容

夫婦間での過去1年間のサポートの授受(要求量、被要求量、提供量、受け取り量)、サポート獲得方略の授受(使用度と被使用度)、および結婚の質を測定した。

サポート

周(1993)の尺度を参考にし、10項目のサポート尺度(情緒的サポート3項目、道具的サポート4項目、助言的サポート3項目)を作成した(付表1参照)。サポートの指標としては、①能動的受け手としての要求したサポート、②受動的送り手としての要求されたサポート、③能動的送り手としての提供したサポート、④受動的受け手としての受け取ったサポート、の4種類を使用した。10項目のそれぞれについて、“たくさん(求めた、求められた、与えた、もらった)”(4点)から“まったく(求めなかった、求められなかった、与えなかった、もらわなかった)”(1点)までの4段階で評定させ、各サポートを求めた程度、求められた程度、提供した程度、受け取った程度の高い段階の反応に高得点を与えるように得点化した。

サポート獲得方略

周・深田(2011)に基づき、29項目6因子のサポート獲得方略リストを使用した。6因子は、脅し(例:脅かしたり脅迫して助けを応諾させるなど6項目)、他者利用(例:親しい友人や親戚を介して助けを求めるなど5項目)、婉曲表現(例:はっきり言わず暗示的に助けを求めるなど4項目)、報酬提供(例:助けてくれればプレゼントやご馳走すると伝えるなど4項目)、哀願(例:だだをこねて助けてもらうなど5項目)、理性的訴え(例:理由を説明したり解釈したりして助けてもらうなど5項目)であった。能動者と受動者の両方向から、各方策リスト項目に対する使用度と被使用度を“頻繁に使った(使われた)”(4点)から“まったく使わなかった(使われなかった)”(1点)までの4段階で評定させ、使用頻度の高い段階の反応に高得点を与えるように得点化した。

これら6因子をさらにまとめるため、夫・妻×使用度・被使用度の4種のそれぞれの得点に関して二次因子分析を行った。その結果、4種の得点のいずれについても、 χ^2/df は3以下($\chi^2 = 952.86 - 1044.79, df = 359, ps < .001$)、RMSEAは約.06(.060－.065)、CFIは約.90(.87－.91)、一次および二次の因子負荷量は.56－.99($ps < .001$)であり、二次因子の適合性はかなり適切であることが示された。図2に示すように、脅し、他者利用、報酬提供の3方略は一つの二次因子にまとまり、婉曲表現、哀願、理性的訴えの3方略はもう一つの二次因子にまとまった。前者を“強硬方略”因子、

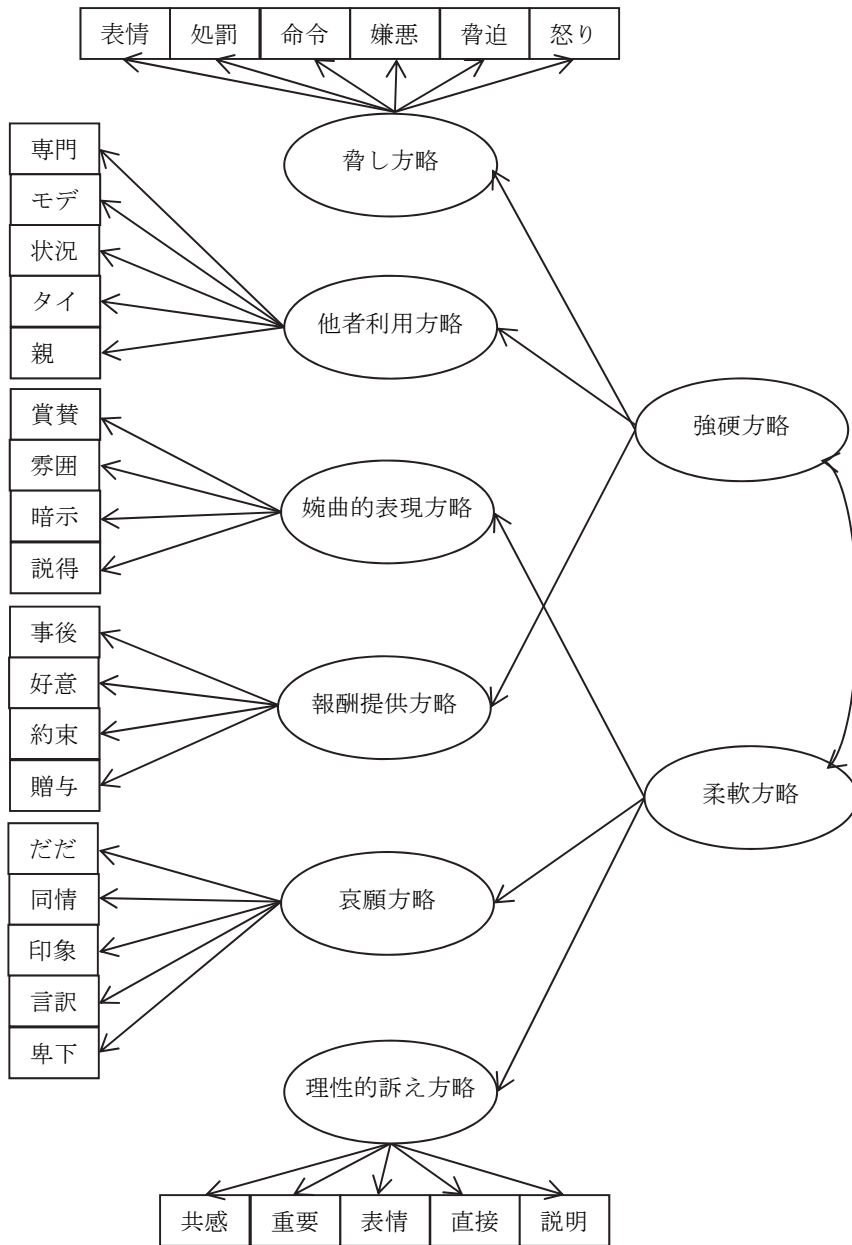


図2 サポート獲得方略の二次因子構造

後者を“柔軟方略”因子と命名した。詳しい分析結果を付表2に示した。なお、この2つの二次因子の間には高い相関関係 ($r=.61-.82$) があった。

結婚の質

伊(1991)と李(1999)の尺度を参考にし、14項目の結婚の質尺度を作成し使用した(付表3参照)。各項目に対して“よくあてはまる”(4点)から“まったくあてはまらない”(1点)までの4段階で評定させ、充実度あるいは後悔度の高い段階の反応に高得点を与えるように得点化した。この14項目を夫婦別々に因子分析(主成分法、直交回転)を行った結果、夫と妻との因子構造が一致しており、7項目の充実度因子と7項目の後悔度因子の2因子が抽出された($\alpha=.86-.89$)。

なお、各項目の欠損値は1%以下であり、欠損値には平均値を代入して処理した。

結 果

変数間の関係

3因子から成る要求、被要求、提供、受け取りの4種類のサポート、6因子から成るサポート獲得方略の使用と被使用、および2種類の結婚の質の間関係を検討するため、相関分析を行った。まず、夫あるいは妻における各変数間の相関関係を表1に示した。表1から、夫婦とも各自の報告した4種類のサポートの間には、中程度以上の正の相関関係が見られ(夫： $.43-.76$ 、妻： $.34-.72$)、多く要求するほどサポートを多く受け取り、多く要求されるほどサポートを多く提供していることが分かった。6因子のサポート獲得方略の使用度の中に全て、および被使用度の中に全て、弱い程度からやや強い程度の正の相関関係がみられ(夫： $.19-.68$ 、 $.31-.72$ ；妻： $.17-.64$ 、 $.12-.62$)、ある方略の使用度・被使用度が高ければ、その他の方略の使用度・被使用度も高くなることが示された。2種類の結婚の質の間にはやや高い負の相関関係がみられた(夫： $-.61$ 、妻： $-.68$)。また、サポート獲得方略各因子の使用度と被使用度の間には、全て中程度以上の正の相関関係がみられ(夫： $.46-.68$ 、妻： $.58-.78$)、ある方略の使用度が高ければ、その方略の被使用度も高くなることが分かった。

4種類のサポートと結婚の質との相関関係については、夫婦とも各自の報告する要求したサポート、提供したサポート、受け取ったサポートが多ければ、結婚の充実度が高くなり、後悔度が低くなっているが、要求されたサポートが多ければ、後悔度が高くなっている。サポート獲得方略の使用度や被使用度と結婚の質との相関関係については、夫婦とも脅し、他者利用、報酬提供の3因子のサポート獲得方略の使用・被使用が多くなると、結婚の充実度が低くなり、後悔度が高くなっており、理性的訴え方略の使用が多くなると、充実度が高くなり、後悔度が低くなっている。

表1 夫あるいは妻における各変数間の相関関係

妻\夫 ^a	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.	12.	13.	14.	15.	16.	17.	18.
1.求めたSS	--	.43	.45	.76	.17	.17	.27	.18	.32	.49	.13	.18	.25	.16	.26	.40	.26	-.15
2.求められたSS	.34	--	.50	.37	.21	.19	.32	.24	.25	.35	.30	.30	.33	.28	.33	.48	-.02	.12
3.提供したSS	.40	.49	--	.50	-.04	.03	.22	.08	.12	.36	.09	.06	.17	.08	.18	.35	.23	-.13
4.受け取ったSS	.72	.30	.44	--	.07	.12	.23	.11	.24	.47	.03	.10	.19	.09	.13	.37	.36	-.27
5.(自分)脅し	.08	.14	-.01	-.02	--	.68	.41	.61	.43	.19	.63	.63	.39	.58	.35	.26	-.27	.45
6.(自分)他者利用	-.03	.17	-.02	-.12	.59	--	.48	.67	.44	.24	.60	.71	.46	.61	.34	.27	-.24	.45
7.(自分)婉曲的表現	.28	.28	.24	.27	.32	.41	--	.56	.66	.53	.42	.45	.75	.51	.60	.49	-.03	.11
8.(自分)報酬提供	.02	.17	.03	-.06	.54	.61	.43	--	.54	.26	.58	.63	.56	.78	.55	.38	-.19	.36
9.(自分)哀願	.35	.25	.19	.29	.39	.33	.64	.45	--	.43	.42	.39	.59	.51	.61	.39	-.03	.13
10.(自分)理性的訴え	.39	.27	.25	.40	.17	.18	.55	.24	.43	--	.14	.21	.43	.26	.36	.58	.27	-.19
11.(相手)脅し	-.13	.27	.01	-.23	.48	.54	.16	.43	.17	.03	--	.67	.44	.65	.47	.31	-.30	.49
12.(相手)他者利用	-.06	.24	.02	-.13	.47	.68	.28	.55	.28	.09	.62	--	.48	.69	.42	.33	-.28	.43
13.(相手)婉曲的表現	.18	.32	.18	.16	.36	.41	.66	.43	.48	.38	.29	.47	--	.58	.72	.56	-.04	.17
14.(相手)報酬提供	.02	.20	.05	-.04	.46	.48	.42	.64	.42	.23	.47	.59	.55	--	.62	.42	-.21	.36
15.(相手)哀願	.11	.30	.13	.03	.42	.43	.48	.47	.58	.27	.36	.46	.62	.60	--	.54	-.05	.18
16.(相手)理性的訴え	.31	.33	.33	.29	.19	.14	.38	.16	.29	.46	.12	.22	.52	.29	.42	--	.07	.02
17.充実度	.33	-.01	.25	.43	-.18	-.28	.10	-.16	.04	.19	-.38	-.30	.00	-.13	-.10	.13	--	-.61
18.後悔度	-.23	.13	-.12	-.36	.32	.36	-.01	.27	.06	-.09	.52	.40	.09	.24	.22	-.05	-.68	--

^a右下がりの対角線の右斜め上半分は夫の場合、左斜め下半分は妻の場合の相関係数

$r \geq \pm .09, p < .05$; $r \geq \pm .12, p < .01$; $r \geq \pm .16, p < .001$

表2 各変数における夫婦間の相関関係

夫\妻	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.	12.	13.	14.	15.	16.	17.	18.
1.求めたSS	.21	.14	.25	.20	.03	.01	.07	.06	.08	.09	-.07	-.06	.08	.01	.09	.16	.21	-.19
2.求められたSS	.13	.16	.19	.11	.05	.05	.19	.17	.15	.16	.00	.02	.11	.08	.10	.10	.08	-.08
3.提供したSS	.19	.03	.22	.24	.06	-.04	.13	.03	.11	.12	-.09	-.06	.05	-.01	.06	.14	.21	-.15
4.受け取ったSS	.18	.12	.24	.18	.02	.01	.04	.01	.00	.13	.00	-.02	.06	.04	.05	.12	.28	-.21
5.(自分)脅し	-.09	.11	.02	-.16	.18	.26	-.01	.21	.05	-.09	.37	.26	.08	.14	.09	-.02	-.17	.23
6.(自分)他者利用	-.09	.07	-.05	-.12	.24	.33	.03	.25	.05	-.10	.30	.34	.15	.18	.13	-.01	-.16	.19
7.(自分)婉曲的表現	.09	.09	.06	.11	.21	.15	.20	.24	.21	.11	.13	.16	.26	.17	.22	.21	.05	.00
8.(自分)報酬提供	.03	.07	-.01	-.04	.26	.24	.11	.37	.19	-.04	.25	.26	.18	.30	.26	.04	-.09	.15
9.(自分)哀願	.15	.13	.11	.12	.23	.14	.13	.26	.27	.02	.14	.17	.23	.22	.31	.18	.03	.06
10.(自分)理性的訴え	.08	.08	.11	.12	.08	.05	.13	.11	.10	.15	.03	.04	.14	.08	.10	.23	.13	-.13
11.(相手)脅し	-.03	.06	-.03	-.08	.26	.21	.02	.21	.13	-.09	.26	.24	.09	.16	.18	-.04	-.13	.17
12.(相手)他者利用	-.04	.06	-.02	-.10	.22	.32	.06	.25	.12	-.07	.31	.33	.12	.18	.18	.03	-.16	.17
13.(相手)婉曲的表現	.10	.11	.07	.13	.19	.18	.23	.31	.27	.12	.19	.18	.24	.23	.24	.17	.00	.04
14.(相手)報酬提供	.04	.06	-.01	-.01	.21	.22	.12	.31	.20	.00	.26	.24	.18	.29	.23	.03	-.10	.12
15.(相手)哀願	.13	.06	.08	.12	.21	.19	.21	.33	.39	.12	.16	.14	.20	.24	.32	.14	.04	.01
16.(相手)理性的訴え	.09	.06	.10	.11	.08	.06	.12	.16	.13	.10	.10	.09	.12	.11	.11	.16	.04	-.08
17.充実度	.17	-.08	.09	.18	-.08	-.17	.07	-.07	.01	.12	-.24	-.21	.01	-.03	.01	.08	.44	-.31
18.後悔度	-.11	.11	-.04	-.21	.18	.23	-.08	.19	.01	-.12	.28	.27	.01	.12	.06	-.06	-.39	.45

$r \geq \pm .09, p < .05$; $r \geq \pm .12, p < .01$; $r \geq \pm .16, p < .001$

次に、各変数における夫婦間の相関関係を表2にまとめた。全ての変数において夫と妻との間に有意な弱い程度から中程度の正の相関関係がみられ (.15-.45)、夫と妻の報告はある程度一致することが示された。また、夫/妻の求めたサポートと妻/夫の求められたサポートとの間 (.13 と .14)、夫/妻の提供したサポートと妻/夫の受け取ったサポートとの間 (ともに .24)、あるいは各サポート獲得方略における夫/妻の使用度と妻/夫の被使用度との間 (.10-.39) には弱い正の相関関係がみられ、夫婦間サポートの授受の知覚、あるいは方略使用・被使用の知覚はあまり一致していないと言える。

各変数における夫婦間の差異

夫あるいは妻が報告した要求、被要求、提供、受け取りの4種類のサポート、6因子のサポート獲得方略の使用と被使用、および2種類の結婚の質の得点を表3に示した。これらの変数における夫と妻の差を検討するため、対応のあるt検定を行った。その結果、夫よりも妻の方が要求したサポート量、脅し、他者利用、婉曲的表現、哀願、理性的訴えの5つの獲得方略の使用度、強硬方略や柔軟方略の使用度が有意に高く、妻よりも夫の方が要求されたサポート量、脅しと哀願の2つの獲得方略の被使用度、および結婚の充実度が有意に高いことが示された。

表3 各変数の得点および夫婦間の差

	得点 レンジ	夫		妻		t
		M	SD	M	SD	
1.求めた S S	10-40	22.83	5.89	23.83	5.63	-2.93 **
2.求められた S S	10-40	22.53	5.48	21.76	5.83	2.24 *
3.提供した S S	10-40	26.15	6.09	26.16	6.06	-0.03
4.受け取った S S	10-40	25.00	5.88	25.43	5.86	-1.23
5.(自分)脅し	1-4	1.29	0.45	1.46	0.49	-5.95 ***
6.(自分)他者利用	1-4	1.37	0.51	1.47	0.50	-3.58 ***
7.(自分)婉曲的表現	1-4	2.14	0.67	2.31	0.63	-4.40 ***
8.(自分)報酬提供	1-4	1.52	0.62	1.53	0.60	-0.10
9.(自分)哀願	1-4	1.77	0.64	2.05	0.66	-7.67 ***
10.(自分)理性的訴え	1-4	2.64	0.61	2.79	0.55	-4.16 ***
11.(自分)強硬方略	3-12	4.18	1.38	4.45	1.35	-3.70 ***
12.(自分)柔軟方略	3-12	6.55	1.60	7.14	1.53	-6.52 ***
13.(相手)脅し	1-4	1.40	0.56	1.33	0.50	2.21 *
14.(相手)他者利用	1-4	1.44	0.56	1.39	0.50	1.58
15.(相手)婉曲的表現	1-4	2.11	0.70	2.12	0.69	-0.23
16.(相手)報酬提供	1-4	1.52	0.65	1.53	0.61	-0.36
17.(相手)哀願	1-4	2.03	0.69	1.91	0.67	3.10 **
18.(相手)理性的訴え	1-4	2.64	0.56	2.66	0.55	-0.55
19.(相手)強硬方略	3-12	4.36	1.57	4.26	1.35	1.27
20.(相手)柔軟方略	3-12	6.78	1.68	6.69	1.58	0.95
21.充実度	7-28	23.79	3.32	23.08	3.61	4.07 ***
22.後悔度	7-28	10.89	3.93	11.24	3.96	-1.79

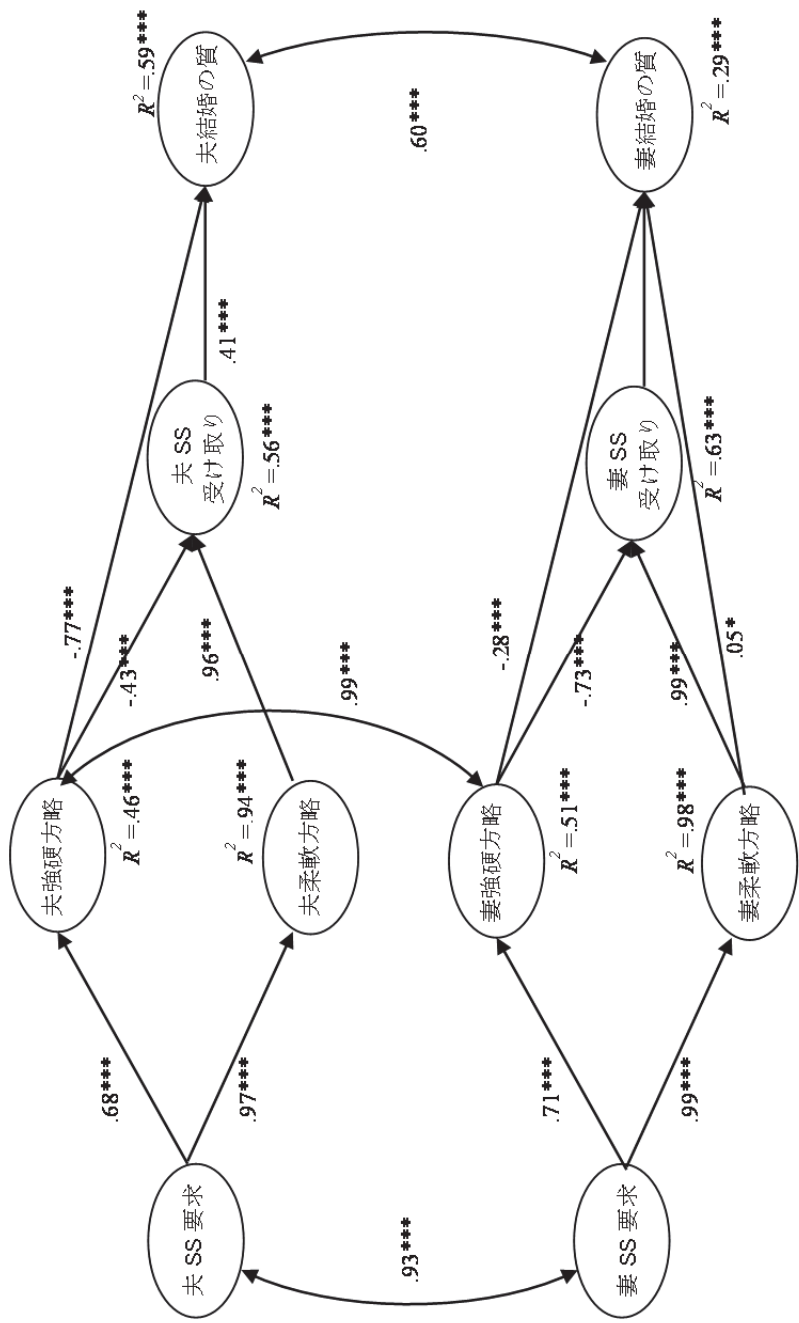
*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

サポート獲得における夫婦の相互作用過程モデル

夫も妻もサポートの要求からサポート獲得方略の使用へ、サポート獲得方略の使用からサポートの受け取りへ、そしてサポート受け取りから結婚の質へという図1のパスを検討するため、共分散構造分析を用いた。その際、夫の場合、夫のサポート要求量（情緒・道具・助言の3種類のサポートから成る）と妻のサポート被要求量（情緒、道具、助言の3種類のサポートから成る）を観測変数の指標とし、“夫SS要求”という潜在変数を構成した。そして、6因子のサポート獲得方略をもって夫が使用したサポート獲得方略と妻が使用されたサポート獲得方略を観測変数の指標とし、“夫強硬方略”（脅し、他者利用、報酬提供の3方略から成る）と“夫柔軟方略”（婉曲的表現、哀願、理性的訴えの3方略から成る）の2つの潜在変数を構成した。また、夫のサポート受け取り（情緒、道具、助言の3種類のサポートから成る）と妻のサポート提供（情緒、道具、助言の3種類のサポートから成る）を観測変数の指標とし、“夫SS受け取り”の潜在変数を構成した。さらに、夫自身の結婚の充実度と後悔度（得点逆転）を観測変数の指標とし、“夫結婚の質”という潜在変数を構成した。妻の場合も夫と同様に上記の5つの潜在変数を構成した。

共分散構造分析の結果、 χ^2/df は約 2.85 ($\chi^2 = 3898.11$, $df = 1366$, $p < .001$)、RMSEA は.064、CFI は.84 で、相互作用過程モデルの適合性は良好であることが示された。夫・妻のサポート要求量や被要求量、夫・妻の方略使用度や被使用度、あるいは夫・妻のサポート受け取り量や提供量を構成した指標の因子負荷量は.52-.94 ($ps < .001$)、また夫・妻の結婚の質を構成した指標（充実度と後悔度）の因子負荷量は.69-.91 ($ps < .001$) であり、これらの観測変数と潜在変数の適合性はかなり良好であることが示された。そして、夫のSS要求、強硬方略、柔軟方略、およびSS受け取りについて、夫自らの認知と妻側の認知における因子負荷量は、.44と.15、.97と.42、.99と.38、および.57と.22 ($ps < .001$) であり、妻側の認知よりも夫自身の認知の方が強力な影響を与えており、その一方、妻のSS要求、強硬方略、柔軟方略、およびSS受け取りについて、妻自らの認知と夫側の認知における因子負荷量は、.19と.56、.42と.97、.30と.90、および.39と.63 ($ps < .001$) であり、妻自身の認知よりも夫側の認知の方が強力な影響を与えていることが分かった。なお、子どもの人数、結婚年数と教育水準の3変数をモデルの中に加えたところ、教育水準のみ妻の結婚の質に正の影響が見られ、教育水準が高ければ結婚の質が高くなっていたが、その他の変数の有意な影響は見られなかった。

相互作用過程モデルの中の有意な箇所を図3にまとめた。図3から、影響過程は夫の場合と妻の場合とでよく類似しており、夫婦ともサポートの要求が多ければ、強硬方略と柔軟方略の使用度が高くなることが示された。そして、強硬方略の使用度が高ければ、サポートの受け取り量が減少し、結婚の質が低下すること、また、柔軟方略の使用度が高ければサポートの受け取り量が増加することが示された。そして、サポート受け取り量が増加すれば、結婚の質が向上することが分かった。なお、妻の場合のみ、柔軟方略の使用度の増加につれて、結婚の質が向上することが見られた。夫や妻の結婚の質に対するモデルの説明力はかなり高いことも示された ($R^2 = .59$ と $.29$, $p < .001$)。



図内の数値は標準化係数 *** $p < .001$, * $p < .05$

図3 サポート獲得における夫婦の相互作用過程モデルの主な結果

つまり、夫も妻も夫婦間でのサポートの要求は強硬方略や柔軟方略の使用に直接的に結びつき、強硬方略の使用は直接的に、またはサポート受け取り量を経由して間接的に、結婚の質に悪影響を与えており、夫の柔軟方略の使用はサポート受け取り量を経由して間接的に、妻の柔軟方略の使用は直接的に、またはサポート受け取り量を経由して間接的に、結婚の質に好ましい影響を与えていることが示された。

考 察

本研究は、サポートの“送り手-受け手”と“能動性と受動性”の観点から、二者関係である夫婦間のサポートの交換過程を検討した。分析の結果から、夫婦間で使用される6因子のサポート獲得方略は“強硬”と“柔軟”の2つの二次因子に統合され、サポートの授受、サポート獲得方略の授受、および結婚の質は夫婦間で異なることが分かった。そして夫あるいは妻自身の認知と相手の認知を観測変数として同時に考慮して分析したところ、夫婦間でのサポートの要求は、サポート獲得方略として具体的に表出され、このサポート獲得方略が直接的に、あるいはサポート受け取り量を経由して間接的に、結婚の質に影響を与えるというパスが検証された。

まず二次因子分析により、夫婦間のサポート獲得方略は大きく“強硬”と“柔軟”の2つの高次因子にまとまった。前者は脅し、他者利用、報酬提供の3方略を含み、外的・疎遠的・厳しいといった特徴があり、後者は婉曲表現、哀願、理性的訴えの3方略を含み、情的・柔らかいなどの特徴があった。

次に、各変数における夫婦間の差異をみると、夫に比べ、妻の方がサポートを求める量が多く、脅し、他者利用、婉曲的表現、哀願、理性的訴えという5つのサポート獲得方略（一次因子）、および強硬方略と柔軟方略という2つのサポート獲得方略（二次因子）の使用度が高いことが判明した。これに対して、妻に比べ、夫の方がサポートを求められる量が多く、脅しや哀願という2つのサポート獲得方略（一次因子）の被使用度が高いことが判明した。こうした結果を要求者-被要求者および方略使用者-方略被使用者の観点から考えるならば、能動的にサポートを求め、能動的に方略を使用する妻は、サポートの要求者と方略の使用者としての立場が顕著であり、逆に、受動的にサポートを求められ、受動的に方略を使用される夫は、サポートの被要求者と方略の被使用者としての立場が顕著であると言える。このように、要求者としての性格を強く持つ妻は、欲求や期待が満たされていないため、サポートを能動的に要求し、サポート獲得方略を使用せざるをえないが、被要求者としての性格を強く持つ夫は、資源や勢力などを握っているため、サポートを受動的に要求され、サポート獲得方略を使用されると推測される。こうした現象は、台湾の伝統的性別分業の期待（唐・陳, 2000）や父権の社会的規範が暗黙のうちに夫婦間の日常的なサポートの授受やサポート獲得方略の授受に反映していると考えられる。また、結婚生活に対する評価が妻に比べ夫の方で高かったことは、過去の研究（周, 2009; 蕭・黄, 2010; Vaillant & Vaillant, 1993 など）と一致している。

そして、サポートの授受あるいはサポート獲得方略の授受と結婚の質との間の相関にも興味深い

事実が認められた。夫婦ともに、サポート要求量、提供量、受け取り量は結婚の質の向上と関連し、サポート被要求量は結婚の質の低下と関連することが見出され、サポートを要求されることはサポートの被要求側にとってはやはり大きな負担になることが証明されたと言える。理性的訴え方略の使用度は結婚の質の向上と繋がっているが、脅し、他者利用、報酬提供方略の使用度・被使用度は結婚の質の低下と関連性が強いことが示された。個人の用いるサポート獲得方略の適切さはサポートを十分に受け取れるかどうかの決定因の一つだと指摘され（周, 2000, 2003）、夫婦のような親密な関係では、婉曲表現、哀願、理性的訴え方略は、配偶者を配慮する重要な方略であり、適切なサポート獲得方略と見なされ（周・深田, 2011）、本研究でも類似した結果が得られた。その上、脅し、他者利用、報酬提供など強引・疎遠・他人行儀な方略は、使用側にとっても被使用側にとっても不適切なものであり、夫婦関係に悪影響をもたらすことが分かった。また、サポートの授受の知覚やサポート獲得方略の授受の知覚に関しては、夫と妻の間に中程度の相関があり、夫と妻の知覚はある程度類似していた。こうした結果は、サポートの受け取りや夫婦間の方略使用について夫と妻の間に何らかの対応性・相互性があると指摘した先行研究（周・謝, 2009; 周・深田, 2011; 熊谷, 1979 など）の結果と一致する。

本研究の最大の目的は、夫婦間の相互作用過程の中で、サポートの授受とサポート獲得方略の授受を“能動－受動”と“送り手－受け手”の観点で捉え、それを検証することであった。周・深田（1996）はサポートの“提供－受け取り”の次元における“能動性－受動性”という概念をサポートの“要求－被要求”の次元に拡張し、サポートを提供する能動的な送り手であると同時にサポートを受け取る受動的な受け手として個人を位置づけるだけでなく、サポートを求められる受動的な送り手であると同時にサポートを求める能動的な受け手としても個人を位置付けた。本研究は、そうした考え方を夫婦関係という二者関係に適用し、夫婦の一方の側が能動的にサポートを求めるとき、何らかの方略を使用すれば、他方の側は、何らかの方略が使用されていることを認知することを通して、サポートを求められていると受動的に認知することになり、その結果、能動的にサポートを提供することが生じ、一方の側は受動的にサポートを受け取ることになるという一連の相互作用過程を想定した。こうした論理に基づき、サポートの授受やサポート獲得方略の授受に関する夫あるいは妻の認知は、自らの認知と相手の認知によって構成されると仮定し、自らの認知と相手の認知を観測変数とする、サポート獲得に関する夫婦間の相互作用モデルを構築し、検討した。

共分散構造分析の結果から、サポート要求、強硬方略、柔軟方略あるいはサポート受け取りのいずれも、自らの認知と相手の認知の両方から構成されることが示され、仮説の妥当性が証明された。驚くべき事実は、夫にとっても妻にとっても、妻自身の認知よりも夫側の認知の方が倍以上の説明力を有することであった。性役割分業意識は20世紀を通して劇的に変化してきた意識の1つといわれ（嶋崎, 2005）、台湾では夫婦各自に伝統的な役割を果せばよいと考える傾向はかなり弱まり、特に女性は男性よりも平等主義的態度を持つ傾向が強くなったこと（張・李, 2007）が示唆されている。しかし、本研究の結果は、これらの見解と矛盾するものであり、台湾人夫婦の間では男性優位の権力関係が現在でも根強く残っていることを暗黙に裏付ける証拠であると解釈できる。そして、家庭内における夫優位の権力構造が、夫のみならず、妻の間でも内在化され、存続していることが

窺える。

さらに、夫婦間におけるサポート要求、サポート獲得方略使用、サポート受け取り量、結婚の質を組み込んだ一連の相互作用モデルの適切性が共分散構造分析によって証明された。サポートの要求は強硬方略や柔軟方略の両方に対し直接的な強い正のパスを示し、サポートを必要とすれば、必ず複数の方略を使おうとすることが分かった。また、サポートの要求から方略へのパス係数をみると、夫も妻も柔軟方略の方が強硬方略よりも高く、夫婦関係では、やはり配偶者を配慮する方略を優先的に採用すること分かった。そして柔軟方略を多く使えば使うほど、サポートをもらえる量が多くなり、結婚の質が向上する一方、強硬方略を多く使うほど、サポートをもらえる量が少なくなり、結婚の質が低下してしまうことが証明された。夫婦関係では、サポート獲得方略として、柔軟方略は適切な方略であるが、強硬方略は不適切な方略であることが解明された。

このように、本研究は、夫婦という二者関係におけるサポートやその獲得方略の交換過程が結婚の質に及ぼす影響を、一つの相互作用モデルの検証を通して解明し、興味深い示唆を得た。今後、伝統的性役割分業観や夫婦間の勢力関係などの要因を取り上げ、サポート交換過程と結婚の質との関係に及ぼすそれらの要因の影響を検討することにより、研究をさらに深化させる方向が考えられる。また、サポート獲得方略だけでなく、家庭内リーダーシップやサポート拒否方略などの他のコミュニケーション方略も同時に考慮することによって、夫婦間での全般的な方略使用の特徴を把握する方向も考えられる。なお、長期的・縦断的なデータを用いて本研究の結果の妥当性を検討することも将来の課題の一つになる。

引用文献

- Acitelli, L. K., & Antonucci, T. C. (1994). Gender differences in the link between marital support and satisfaction in older couples. *Journal of Personality and Social Psychology*, **67**, 688-698.
- 張 晉芬・李 奕慧 (2007). 「女人的家事」、「男人的家事」: 家事分工性別化的持續與解釋 人文及社會科學集刊, **19(2)**, 203-229.
- Fincham, F. D., Stanley, S. M., & Beach, S. R. H. (2007). Transformative processes in marriage: An analysis of emerging trends. *Journal of Marriage and Family*, **69**, 275-292.
- Gagnon, M. D., Hersen, M., Kabacoff, R. I., & Van-Hassel, V. B. (1999). Interpersonal and psychological correlates of marital dissatisfaction in late life: A review. *Clinical Psychology Review*, **19**, 359-378.
- 周 玉慧 (1993). 在日中国系留学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み 社会心理学研究, **8**, 235-245.
- 周 玉慧 (2000). ソーシャル・サポート獲得方策リストの作成 心理学研究, **71**, 234-240.
- 周 玉慧 (2003). 人を見てモノをいうか?——サポート源に応じたサポート獲得方略の使用 心理学研究, **73**, 494-501.
- 周 玉慧 (2009). 夫妻間衝突因應策略類型及其影響 中華心理學刊, **51(1)**, 81-99.
- 周 玉慧・深田 博己 (1996). ソーシャル・サポートの互恵性が青年の心身の健康に及ぼす影響 心

- 理学研究, **67**, 33-41.
- 周 玉慧・深田 博己 (2011). 夫婦間サポート獲得方略の使用類型がサポート受け取りと結婚の質に及ぼす影響 心理学研究, **82**, 231-239.
- 周 玉慧・謝 雨生 (2009). 夫妻間支持授受及其影響 中華心理學刊, **51(4)**, 215-234.
- Katz, J., Monnier, J., Libet, J., Shaw, D., & Beach, S. R. H. (2000). Individual and crossover effects of stress on adjustment in medical student marriages. *Journal of Marital & Family Therapy*, **26**, 341-351.
- 熊谷 文枝 (1979). 夫婦の葛藤解決表出過程——日・印・米の比較調査—— 社会学評論, **30**, 36-50.
- Lynch, S. A. (1998). Who supports whom? How age and gender affect the perceived quality of support from family and friends. *Gerontologist*, **38**, 231-238.
- 李 良哲 (1999). 維繫婚姻關係重要因素的成人期差異初探 教育與心理研究, **22**, 145-160.
- 蕭 英玲・黃 芳銘 (2010). 婚姻滿意度與憂鬱傾向：貫時性對偶分析 中華心理學刊, **52(4)**, 337-396.
- 嶋崎 尚子 (2005). 家族に関する意識 日本家族社会学会全国家族調査委員会(編)第2回家族についての全国調査(NFRJ03)第一次報告書 pp. 175-192.
- Tsutsumi, A., Tsutsumi, K., Kayaba, K., & Igarashi, M. (1998). Health related behaviors, social support, and community morale. *International Journal of Behavioral Medicine*, **5**, 166-182.
- 唐 先梅・陳 芳茹 (2000). 從性別角色理論看雙薪家庭夫妻休閒生活之差異 生活科學學報, **6**, 75-92.
- Väänänen, A., Buunk, B. P., Kivimäki, M., Pentti, J., & Vahtera, J. (2005). When it is better to give than to receive: Long-term health effects of perceived reciprocity in support exchange. *Journal of Personality and Social Psychology*, **89**, 176-193.
- Vaillant, C. O., & Vaillant, G. E. (1993). Is the U-curve of marital satisfaction an illusion?: A 40 year study of marriage. *Journal of Marriage and the Family*, **55**, 230-239.
- 伊 慶春 (1991). 台北地區婚姻調適的一些初步研究發現 国家科学委員会研究彙刊:人文及社会科学, **1**, 151-173.

付表1 サポート尺度

情緒的サポート

1. 考えややり方を理解したり肯定したりする
2. 気持ちを伝えたいとき、そばにいて話を聞く
3. 落ち込んだりしたとき、話を聞いたり励ましたりする

道具的サポート

4. 緊急にお金が必要なとき、出してくれたりする
5. 必要ならば、いくら大事なものでも貴重なものでも貸す
6. 家事や家族の日常生活の世話などを手伝う
7. 体がきついたり病気するとき、家事や家族の世話を代わりにする

助言的サポート

8. 問題に遭遇したとき、問題解決の経験を伝え、助言する
 9. 何か決めないといけないとき、相談にのり、意見を言う
 10. 物事のやり方など、批判せずに客観的に意見やアドバイスをする
-

付表3 結婚の質尺度

充実度

1. 互いの関係はかなり安定している
2. 結婚生活は愛と暖かさに満ちている
4. どんな困難があっても、離れはしない
5. 結婚生活の中で、私は欲求を満たしている
9. 充実した結婚生活を送っている
13. もし来世があれば、やはり彼/彼女と結婚したいと思う
14. 全体的には、結婚生活に満足している

後悔度

3. 彼/彼女は私を緊張させる
 6. 結婚生活で、寂しく感じる
 7. 結婚生活は無価値なものと思う
 8. 結婚生活の雰囲気は沈んでいてつまらない
 10. 別居や離婚の可能性がある
 11. 彼/彼女と結婚したことに後悔している
 12. 人生がやりなおせるならば、独身のほうがよい
-

付表2 サポート獲得方略における二次因子分析の結果

方略名 方策名	項目内容	夫		妻	
		使用	被使用	使用	被使用
脅し方略					
怒り出し	30.怒り出して助けを要求する。	.79	.77	.63	.73
脅迫	6.脅かしたり脅迫して助けを応諾させる。	.69	.74	.63	.82
嫌悪刺激	29.助けてくれるまで、煩わしくし続ける。	.80	.73	.59	.71
命令	31.命令する。	.61	.76	.61	.66
処罰の警告	28.助けてくれないと、罰を与えると警告する。	.76	.82	.73	.70
表情の変化（－）	5.助けてくれるまで、不機嫌な顔色を示し続ける。	.62	.73	.64	.77
他者利用方略					
広義の専門意見	18.親しい友人や親戚を介して助けを求める。	.75	.71	.62	.59
モデリング	19.他人の配偶者がこの場合助けてくれると話して、他人の配偶者を見習うように伝える。	.69	.65	.58	.67
状況操作	20.助けてくれる人が、何人かいる状況を作る。	.76	.85	.74	.74
タイミング選択	21.機嫌のよいときなどのチャンスを狙って助けてもらう。	.64	.74	.59	.66
親の専門意見	35.自分の親や配偶者の親を介して助けをもらう。	.74	.74	.61	.59
婉曲的表現方略					
賞賛	32.褒めてから、助けを求める。	.62	.69	.63	.66
雰囲気操作	33.雰囲気良くしてから、助けてもらう内容を話す。	.67	.72	.61	.67
暗示	15.はっきり言わず、暗示的に助けを求める。	.60	.70	.54	.64
説得	16.様々な例を挙げて説得する。	.55	.62	.50	.60
報酬提供方略					
事後の贈与	26.助けてくれれば、プレゼントやご馳走をすると伝える。	.74	.81	.75	.76
事前の好意	27.本心でなくても取り入りをしてから助けを求める。	.74	.78	.67	.73
約束（交換）	24.交換条件を提出して助けを求める。	.73	.76	.78	.72
事前の贈与	23.プレゼントやご馳走をしてから、助けを求める。	.76	.87	.76	.77
哀願方略					
だだをこねる	11.だだをこねて助けてもらう。	.67	.63	.68	.67
同情心	12.可哀相な振りをし、同情心を起こさせ、助けてもらう。	.73	.73	.72	.82
印象操作	13.断れないように、魅力的に振る舞い、助けを求める。	.79	.77	.73	.71
言い訳	14.言い訳をして、助けてもらう。	.70	.75	.65	.64
自己卑下	9.自分を低めたりして、助けを求める。	.71	.71	.59	.72
理性的訴え方略					
説明・理由づけ	1.理由を説明したり解釈したりして助けてもらう。	.38	.35	.40	.28
直接要求	2.直接的に助けを求める。	.42	.34	.29	.25
表情の変化（＋）	3.謙虚に、まじめな態度で助けを求める。	.42	.37	.36	.29
重要性訴え	4.助けてくれることの重要性を強調し続ける。	.57	.64	.54	.60
共感的理解	17.こちらの立場に立ってもらい、助けを求める。	.68	.65	.59	.54
高次因子 I					
脅し方略		.75	.75	.72	.56
他者利用方略		.78	.76	.80	.76
報酬提供方略		1.00	1.00	.94	.94
高次因子 II					
婉曲的表現方略		1.06	.98	1.07	.93
哀願方略		.83	.94	.84	.87
理性的訴え方略		.83	.91	.87	.91
高次因子間相関		.72	.75	.61	.82
指標	χ^2	952.86	1033.25	996.17	1044.79
	p	<.001	<.001	<.001	<.001
	df	359	359	359	359
	CFI	.905	.906	.870	.884
	TLI	.893	.894	.853	.869
	RMSEA	.060	.064	.063	.065
	SRMR	.063	.064	.070	.075

表内の標準化係数の有意水準はすべて.001以下

Effects of marital support and support-gaining strategies on marital quality: A perspective of interactive processes between dyadic relationships

Yuh-Huey JOU (Academia Sinica, Taiwan)

and

Hiromi FUKADA (Hiroshima Bunkyo Women's University)

This paper examines the support exchange processes among married couples from the viewpoint that wife or husband is both an active and passive support provider as well as receiver. Questionnaire data from 452 Taiwanese married couples dealt with three types of support: emotional, substantial, and advice, for four kinds of support: be requested by, provided, requested and received. The six types of support-gaining strategies used and be used were threat, other exploitation, roundabout appeal, reward, entreaty, and reasoning. The two aspects of marital quality measured were satisfaction and regret. The results showed that six support-gaining strategies could be combined as “hard” and “soft” strategies by second order factor analyses. Wives requested more support, used more strategies, however husbands be requested more support and reported better satisfaction. Finally, structural equation model showed that husbands' perception is more powerful than wives' perception, and confirmed the paths among support requested, usage of support-gaining strategies, support received and marital quality.

Key words: support provider and receiver, active and passive support, support-gaining strategies, marital quality, married couples